

## 事業を通じた地域経済への貢献



### 2023年度の進捗

1.3 万人

現地従業員（非正規雇用含む）  
年間雇用人数  
（タイ、インドネシア、フィリピン、  
ベトナム）  
[2022年度：1.1万人]

41.6 万台

年間輸出台数  
うち タイ 30.1万台  
インドネシア 11.5万台  
[2022年度：38.4万台]

- アセアン地域での雇用創出：タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム連結4社で現地雇用を持続的に創出
- アセアン地域への主な人材育成・技術移転：職業訓練校や技術系大学に奨学金付与、実習車両提供、教育研修授業を実施（タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム）
- アセアン地域への主な輸出：タイ、インドネシアから自動車の輸出を継続（輸出車両：[タイ]：トライトン、パジェロスポーツ、ミラージュ、アトラージュ [インドネシア]：エクスパンダー）
- タイとインドネシアにおいて、物流会社、国営郵便などと軽商用EVを活用した実証実験を開始。また、タイでは太陽光発電設備を病院に設置するプロジェクト、インドネシアとフィリピンでは工場屋上に太陽光パネルを設置するプロジェクトなど、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みを推進

〈関連ページ〉

P12 三菱自動車のマテリアリティ  
P16、P18 マテリアリティ

### 基本的な考え方

三菱自動車は、アセアン地域でモータリゼーションが興る以前より事業を展開し、「地域の発展」が「当社の発展」という思いで地域に寄り添いながら各国とともに成長してきました。

長年にわたり事業活動を行っている地域の社会課題の解決に積極的に取り組み、共に成長を目指し、促すことは、地域の活性化、市場の育成、消費者ニーズの把握、当社ブランド力の強化などにつながり、「地域の発展」と「当社の発展」を同時に実現できると考えています。中期経営計画「Challenge 2025」では、アセアンを事業中核地域として経営資源を集中投入します。更に、これまで以上に研究開発費と設備投資を安定的に投じ、特に、電動化、IT分野、新事業への支出割合を増やすことで、会社の更なる成長を目指しています。また、マテリアリティの一つである「事業を通じた地域経済への貢献」では、アセアン地域における事業の発展を通じ、雇用・投資・技術移転・輸出に加え自動車産業を支える人材育成（地域経済を担う人材の成長支援）を実施することで、地域経済への貢献を果たし、共に成長を目指していきます。（※1）

加えて、アセアン地域固有の社会ニーズに応える形で、環境と社会貢献の分野でも当社独自の技術・サービスを生かして取り組んでいます。（※2）

※1 「マテリアリティの特定」の詳細は、P12をご参照ください。

※2 具体的な事例は、P89-91をご参照ください。

### マネジメント体制

アセアン地域でのマテリアリティ「事業を通じた地域経済への貢献」への取り組みは、現地子会社が活動計画の策定及び実行を担い、管理監督機能を果たす当社営業部門が責任部門として取り組みを推進しています。生産拠点を持つタイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムの4カ国については、半年に一度、現地子会社に取り組みの進捗や実績を確認し、サステナビリティ委員会を通じて経営層に報告を行っています。

### 雇用

中期経営計画「Challenge 2025」では、アセアン地域を事業の中核地域と位置付けており、2023年度は初年度として、インドネシアとベトナムでは内燃機関車である新型SUV『エクスフォース』を市場投入しました。タイとフィリピンでは新型ピックアップ『トライトン』を、更に、各国でカーボンニュートラル社会の実現を促進するための政策が相次いで発表されていることを背景として、当社でもタイでは『エクスパンダー』シリーズのHEVモデル、インドネシアでは海外初の電気自動車である『L100 EV（ミニキャブEV）』の生産、販売を開始しました。これらの事業活動により、企業の事業利益を創出するだけでなくアセアン地域における新たな雇用の増加も見込まれています。生産拠点のあるタイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム4カ国における2023年度従業員数は約1万3千人であり、2024年度も現地の事業計画に沿って現地雇用を持続的に創出します。



## 人材育成

産業の高度化を目指すアセアン地域において、三菱自動車での自動車製造や販売・サービスなどの就業経験を通じ、専門的な知見や技能を培うなど、地域経済の発展を担う産業人材への成長支援を行っています。

- ・タイでは、工業系大学7校から募集した36人の学生に向けてインターンシッププログラムを実施し、地域経済の担い手となる人材を育成することに取り組みました。
- ・インドネシアでは、現地社員310人に対しそれぞれの職務レベルに合わせた業務スキルを強化する研修を実施しました。
- ・フィリピンでは、現地社員の業務スキルと生産性の向上を意図した教育・研修を16,183人の社員が受講し、専門性を高めています。
- ・ベトナムでは、現地社員の職位や分野に応じて業務スキル強化と専門性の向上を意図した教育を564人の社員に対して実施しました。

2024年度も継続して、各国の状況に応じた研修やOJT教育を実施予定です。

## 投資

地域経済の成長を支える工場の設備投資を継続的に実施しています。

中期経営計画「Challenge 2025」の方針にもとづき、アセアン地域を事業中核地域と位置付け、新商品の連続投入や各国市場に適した電動車の生産・商品導入を推進する計画を立てています。そのため、今後はアセアン地域に安定的かつ従来よりも高い水準の研究開発費と設備投資を継続して行う予定です。

|                    | 主な投資案件                                                           |
|--------------------|------------------------------------------------------------------|
| 2019年度 - 2023年度の実績 | インドネシア：生産能力向上のために設備の拡張を実施<br>(2019年度から2020年度に生産能力を16万台から22万台に増強) |
|                    | タイ：既存の塗装工場を更新                                                    |
|                    | フィリピン：アセアン向けの商用車輸出を促進するために、工場の設備を整備                              |
| 今後の計画              | ベトナム：新工場検討                                                       |

## 技術移転

当社の成長ドライバーであるアセアンを中心に、各国での現地生産を通じて、ものづくりの高度化と競争力強化を継続的に支援しています。

2023年度は、新型ピックアップトラック『トライトン』、小型SUV『エクスフォース』、更に当社として海外初の電気自動車生産となる『ミニキャブ EV』や、『エクспанダー HEV』などの生産準備・立ち上げを通じて、日本で培ってきた電動車も含めたものづくり技術の海外移転を推進しました。

加えて、ものづくり競争力強化促進のために導入したBuddy (運命共同体) 制度も定着し、新型車立上げから量産に至るまで、品質管理や物流改善など、様々な競争力強化対策の実施やノウハウの伝授を進めており、タイでは溶接・塗装の自動化を日本並みに拡大し、ロボット技術者の育成を促進しました。

また、地球環境にやさしい工場を目指し、太陽光発電の導入を推進しており、今後、タイ、インドネシアやフィリピン各工場への太陽光パネルの新設及び増設を推進し、海外生産拠点でも日本で培った太陽光発電・蓄電の技術・ノウハウの移転を継続して行っています。

更に、現地人材の技術習得を支援するため、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムの技術系大学や職業訓練校に、奨学金による支援や実習車両を提供しました。加えて、自動車産業に携わる職業訓練校の学生が最新の技術や業界のニーズを理解するための一助として、教師向けオンラインセミナーを開催しました。これらの取り組みを通じ、ニーズに応じた多角的な支援を行うことにより、現地技術移転を推進しています。

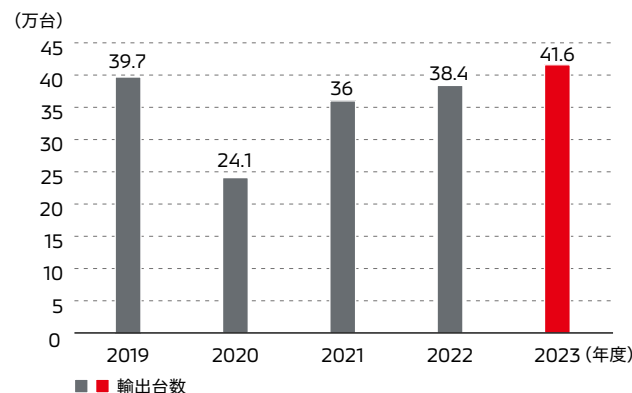
2024年度も、地域製造業の高度化の支援を継続します。



## 輸出

輸出を通じて外貨を獲得することで、地域経済の持続的な成長を支えています。三菱自動車の海外生産拠点であるミツビシ・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド(MMTh)とミツビシ・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア(MMKI)は戦略的な立地を生かし、ピックアップトラック、SUVなど当社の主力車種をアセアン地域のみならずグローバルに輸出しています。

### アセアン地域からの輸出台数



## 製品を通じたカーボンニュートラル社会の実現

### 電気自動車(バッテリーEV)戦略

- ・タイにおいて、2022年度に続き国営郵便や物流企業などと軽商用電気自動車『ミニキャブEV』を使った実証実験を通じてEV普及の基盤を固める検証を行った。
- ・インドネシアにおいて、2024年2月、軽商用電気自動車『L100EV(ミニキャブEV)』を生産

### ハイブリッド自動車(HEV)の普及推進

- ・タイにおいて、2024年2月、『エクスパンダー』シリーズのHEVモデルを販売開始



タイで実証実験で使用している充電中の『ミニキャブEV』



インドネシアで軽商用電気自動車『L100EV(ミニキャブEV)』を販売



タイで『エクスパンダー』シリーズのHEVモデルを販売開始

## 再生可能エネルギーの普及を推進

- ・タイにおいて、地域病院に太陽光発電システムの設置を進める「Solar for Lives」活動を推進(※1)。

- ・インドネシアにおいて、ミツビシ・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア(MMKI)の塗装工場建屋屋上に太陽光発電パネルを設置(※2)(5.6MW、2024年2月より稼働開始)
- ・フィリピンにおいて、ミツビシ・モーターズ・フィリピンズ・コーポレーション(MMPC)の工場に太陽光パネルを設置(※3)(2.8MW、2024年2月よりトライアル稼働開始)



環境プロジェクト「Solar for Lives」太陽光発電設備を設置した病院



MMKIの工場屋根に太陽光パネルを設置



MMPCの工場屋根に太陽光パネルを設置

- ※1 2022年に開始された「Solar for Lives」はMMThがタイ当局の公衆衛生省、発電公社(EGAT)、温室効果ガス管理機構(TGO)などのパートナーや国家機関と協力して推進している活動である。総額6,000万バーツ(約2億2,000万円)を投じて、2032年までにタイの地域病院40カ所に太陽光発電システムを寄贈する。この活動により40カ所の病院の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を1万7,300トン/年削減できると期待される。2022年開始以来、合計8カ所の病院に設置済み。
- ※2 インドネシア政府の2060年カーボンニュートラル実現政策にもとづくMMKIでの取り組み。2022年度に本プログラム開始以来、今回は第二弾となる。
- ※3 フィリピン政府の2030年温室効果ガス排出量75%削減目標にもとづくMMPCでの取り組み。

## 環境・社会貢献

アセアン地域における環境規制への対応がますます重要になる中、当社は電動車の技術や知見を活用し、また各地域のパートナーと協力して、アセアン地域の持続可能な事業を実現すると共にカーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みを推進しています。